

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-193923

(43)公開日 平成11年(1999)7月21日

(51)Int.Cl.
F 24 B 1/20

識別記号

F I
F 24 B 1/20

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全4頁)

(21)出願番号 特願平9-370348

(22)出願日 平成9年(1997)12月29日

(71)出願人 594039815

上杉 昌

北海道紋別郡上湧別町中湧別149番地

(72)発明者 上杉 昌

北海道紋別郡上湧別町中湧別149番地

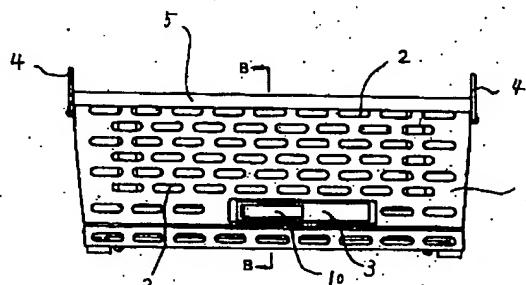
(74)代理人 弁理士 藤沢 貞子

(54)【発明の名称】卓上コンロ

(57)【要約】

【目的】木炭を使用する卓上コンロを金属製とし、卓上に置いても美麗であり、コンロ自体が加熱しないように、空気の流通、放熱効果を効果的に利用したことを特徴とする卓上コンロである。

【構成】金属製の本体は、その外側全面に同じ形状の放熱孔を設け、本体の上枠と火入れ部上枠とを一体に固着し、本体内部に支持される火入れは、底面、外周とも、本体と相当の空間を有し、火入れ部の周囲は断熱材を使用し、更に本体の下に、上部を解放し、内部に二枚の金属板を空間を空けて設けた底部台を取付けて、放熱効果を充分とした構造を有するものである。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】木炭又は人工木炭を使用する卓上コンロにおいて、コンロ本体外側には多数の放熱孔を穿ち、前記本体外側及び本体底部と適宜の空間を隔てた内部の火入れ部を、本体と着脱自在に取付け、前記火入れ部の外周には断熱材を使用し、前記火入れ部の底部は二重として、二重の上部底には適宜の孔を穿ち、二重底の間より一方側に外部との空気流入口を設け、本体と底部と同形の底部台は、上部は解放し、底部台の外側に複数の放熱孔を穿ち、底部台と内部には、それぞれに空間を空けた二枚の金属板を上下に取付け、本体底部とは空間を設けて底部台と取付け自在に連結し、底部台の底部の四隅に短い支柱を取り付けることを特徴とする卓上コンロ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、木炭等を使用する卓上コンロである。

【0002】

【従来の技術】従来の卓上コンロとしては、木炭を使用するものは所謂七輪か、卓上のガスコンロ、又は電熱のコンロが卓上の煮炊きに使用された。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の木炭用の七輪は、卓上で使用するには体裁のよいものではなく、高さもやや高すぎるものが多かった。本発明は、木炭用で金属板を使用し、且つコンロ自体が加熱せず、従って火傷などしないように配慮した卓上コンロである。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明は、以上の課題にかんがみ、鉄板等の金属板を使用した卓上コンロにも係わらず、本体と底部台の間の空気の流通空間や、外側に設けた多数の放熱孔、火入れ部の底部の空気流入口等、空気の流通と、空間を利用して加熱を防ぎ、卓上に置いても美しく、且つ火傷をするような事のない、木炭等を使用する卓上コンロを提供したものである。

【0005】

【発明の実施の形態】本発明の実施例として、図1の正面図、図2の背面図、図3の右側面図、及び図4の平面図に示すように、コンロ本体1は略矩形に形成され、上部がやや広くなるような形状である。その外周にはやや横長な放熱孔2が、全面に模様の如く穿たれている。本体1の正面下部には窓3が空けられている。4は両側面の持手である。尚本体1の形状は、矩形に限るものではない。

【0006】上部の枠5は、上端平面にも図示(図4)のように放熱孔2が穿たれ、本体1の上部枠5と、火入れ部6の上部枠7とは一体に固着されている。火入れ部の周囲は断熱材6aを使用し、火入れ部6の底板8は、金属製の底枠8aと一体であり、底部から短く立ち上がり、断熱材6aの外側を支持し、更にもう一方の内部で

は、底部から短く立ち上がって断熱材6aを内側から支持し、更に中心部方向に折れ曲がり、折れ曲がり部で、火入れ部底板8を支持する。火入れ板8は適宜に複数の孔9を穿っている。

【0007】火入れ部6の底部8と火入れ板9との間で、本体1正面部の底部窓3には、図1、図3、図7に示すように空気流入口10を突出させ、本体1底部から火入れ部6に到るよう空気を流通させる。

【0008】本体1の底部には、更に底部台11を取付けるが、底部台11は、上部を解放した枠体であり、本体1の底板と底部台11の底板11aは、枠体11内部に空間を空けて取付けた二枚の金属板12、12を介して、ボルト13、13により、本体1底部と底部台11との間に空間を設けて、四隅に着脱自在に止め付けられ、金属板12の上板には孔を穿ち、枠体11の外周には連続的に放熱孔2を穿つ。枠体11の底部四隅には、ゴムの短い支柱14を取付ける。

【0009】

【発明の効果】本発明は以上のような構成であるから、外部全面の放熱孔が模様のように美しく、卓上に載せても快いものであり、また火入れ部に断熱材を使用し、火入れ部と本体の間も、可なりの空間を設けているし、上端の枠、底部台の外周にも放熱孔を穿ち、放熱効果を高め、また底部台内の金属板にも孔を設けており、長時間使用すれば熱くはなるが、火傷するように熱いものではないから、木炭、人工炭を使用するコンロとしては、大変便利で安全である。

【0010】

【図面の簡単な説明】

- 【図1】正面図
 【図2】背面図
 【図3】右側面図
 【図4】平面図
 【図5】底面図
 【図6】右側面図のA-A線断面図
 【図7】正面図のB-B線断面図

【符号の説明】

1. 本体
 2. 放熱孔
 3. 窓
 4. 持手
 5. 上部枠
 6. 火入れ部
 6a. 断熱材
 7. 火入れ部の上部枠
 8. 火入れ部の底板
 9. 底板の孔
 10. 空気流入口
 11. 底部台
 11a. 底部台の底板

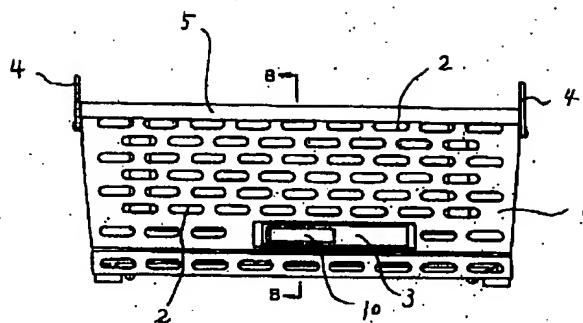
3

4

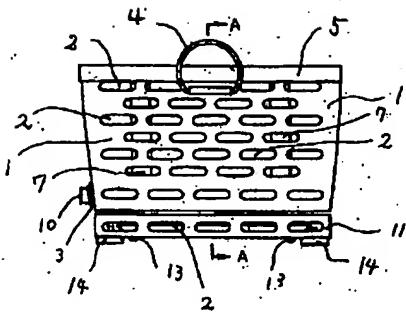
12. 金属板
13. ポルト

14. 支柱

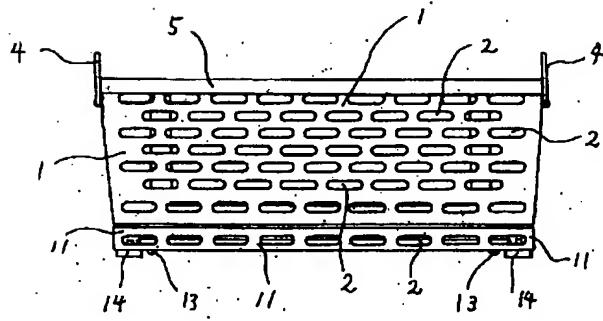
【図1】



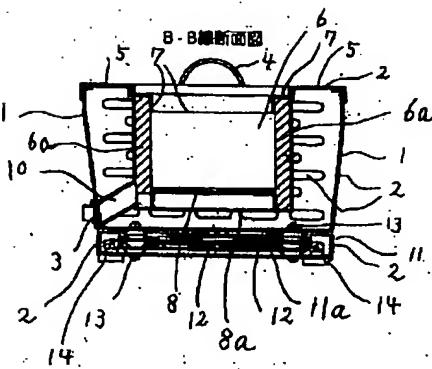
【図3】



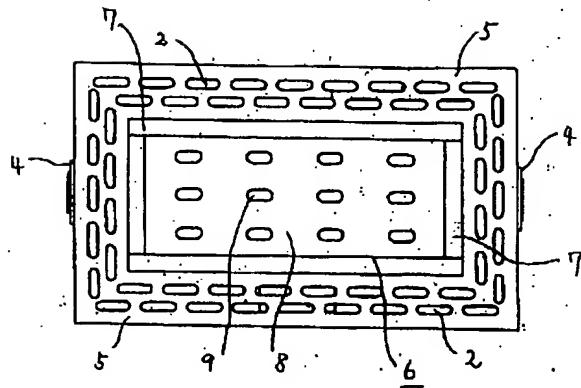
【図2】



【図7】

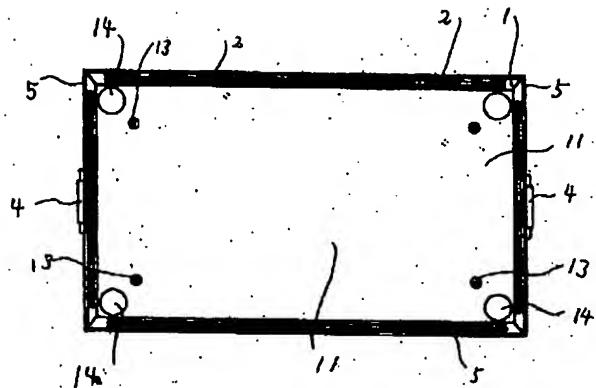


【図4】

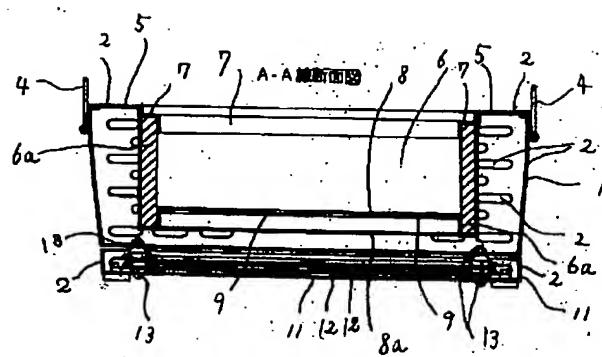


BEST AVAILABLE COPY

【図5】



【図6】



BEST AVAILABLE COPY